

水の供給源となる湿原周辺の自然林

坊ガツル湿原は三俣山、立中山、北大船、平治岳に囲まれた盆地に広がる湿原です。湿原を取り囲む周囲の山々の山頂から山腹斜面には、湿原維持に必要な水の供給をコントロールするミズナラやノリウツギなどが生育する落葉広葉樹の自然林が広がっています。これらの自然林は、気温や地形などの環境によっていくつかのタイプに分けられます。



坊ガツル湿原を囲む自然林



ミヤマキリシマ群落

ミヤマキリシマ群落

ミヤマキリシマ群落は立中山、平治岳、三俣山の山頂部に見られる群落で、ミヤマキリシマのほかマイヅルソウ、イワカガミ、カリヤスモドキなどが厳しい風雪に耐えて生育しています。

ノリウツギ群落

標高ではミヤマキリシマ群落の下方にある群落でノリウツギのほかミヤマガマズミ、アセビなどが生育し灌木林の状態になっています。湿原の周辺部でも見られます。



ノリウツギ群落



ブナ群落

ブナ群落

坊ガツル湿原の周辺では平治岳の山腹に見られる貴重な群落です。

ブナ群落は植生遷移では長い年月を経て成立した、最も安定期の極盛相林です。高木層のブナ、亜高木層のコハウチワカエデ、低木層のスズタケを優占種とする階層構造が明瞭で、水分供給源として大きな役割を果たしています。

地形的には谷地形の所に見られ、豪雨時の土砂流出防止の役目も持っています。

ミズナラ群落

くじゅう山群で最も広範囲に分布している自然林です。

高木層はミズナラ、亜高木層はリョウブ、低木層はコバノガマズミ、オオカメノキなどが優占種となっていてブナ群落と同様、湿原の水を供給する貴重な樹林です。

また、樹林を構成しているのは、ほとんどが落葉樹で秋の紅葉、初夏の新緑は訪れる人々の目を楽しませてくれます。

そこには、野鳥や昆虫も多く集まり、優れた生態系が維持されています。



ミズナラ群落

水の供給

坊ガツル湿原一帯は、くじゅう山群の中でも降水量の多い地域で湿原に面した盆地の内側に降った雨はこれらの樹林に受け止められ、表層土壌に浸透して、ゆっくりと湿原へ向かい再び湧出して湿地を潤しています。湿原を保つには水の安定した供給が必要で、湿原周辺の自然林は、豪雨時には地表面を流下する速度を緩和し、渇水時には樹林の蓄えた水分を徐々に放出しながら、水量をコントロールするという重要な役割を果たしています。



斜面から湧き出した水



樹林からゆっくりと湿原内へ



湿原植生を維持する水